

第 77 回 横浜市廃棄物減量化・資源化等推進審議会会議録

日 時	令和 5 年 3 月 22 日 (水) 14 時 00 分～16 時 00 分
開 催 場 所	横浜市役所 18 階 なみき 18・19 (オンライン併用)
出 席 者	<p>(委員)</p> <p>大迫会長、小野田会長職務代理、 大石委員、大森委員、崎田委員、佐藤委員、篠木委員、堀委員、桃井委員、森委員 以上 10 名</p> <p>(横浜市)</p> <p>資源循環局長、資源循環局副局長、政策調整部長、 家庭系対策部長、家庭系対策部担当部長、事業系対策部長、 適正処理計画部長、適正処理計画部担当部長、 総務課長、政策調整課担当課長、政策調整課調査等担当課長、 3 R 推進課長、業務課長、街の美化推進課長、 産業廃棄物対策課長、産業廃棄物対策課監視指導担当課長、 施設課長、処分地管理課長、施設計画課長、他事務局</p>
欠 席 者	押木委員、本多委員
開 催 形 態	公開 (傍聴者なし)
議 題	<p>1 諮問を受けて設置した小委員会における検討状況について</p> <p>2 令和 5 年度一般廃棄物処理実施計画の策定について</p>
報 告 事 項	保土ヶ谷工場再整備事業について
決 定 事 項	今回の意見を踏まえ、諮問に対する答申案をとりまとめ、次回の審議会で答申案を諮ることとした。
議 事	別添 発言要旨のとおり
配 付 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・名簿 ・資料 1 諮問を受けて設置した小委員会における検討状況について ・資料 2-1 令和 5 年度横浜市一般廃棄物処理実施計画 (案) について ・資料 2-2 令和 5 年度横浜市一般廃棄物処理実施計画 (案) ・資料 3 保土ヶ谷工場再整備事業について ・参考資料 令和 4 年度主な記者発表資料

議題について、事務局から説明し、委員から御意見をいただいた。主な御意見は次の通り。

議題 1 諮問を受けて設置した小委員会における検討状況について

【資料 1】

【プラスチック対策】

(大石委員)

プラスチックごみの分別・リサイクルの拡大は、方向性として素晴らしいと感じる。今後の見通しはどのようになっているのか。

(事務局)

現在リサイクルしているプラスチック製容器包装の 5 万トンに追加して、新たに 2 万トンのプラスチックがリサイクルされると見込んでいる。収集運搬、中間処理、リサイクルに与える影響や事業者の動向を考慮しつつ、なるべく早期に取り組んでいきたい。

(佐藤委員)

地域には高齢者や外国の方も多いため、分別ルールが変更される際には、ポスターやチラシの配布だけではなく、丁寧に周知してほしい。

(事務局)

横浜市の分別協力率は、他の自治体と比較すると高い率で推移している。今回のプラスチックごみの分別・リサイクルの拡大によって、分別協力率を更に高めていけるよう、高齢者や外国の方も含め、しっかりと対応していきたいと考えている。

(篠木委員)

他都市ではプラスチックごみの分別・リサイクルの拡大に伴って、もともと分別対象であった容器包装プラスチックの量も増加したと聞いている。横浜市でも、今回の制度変更を契機として、市民の行動変容を促していくよう、丁寧なコミュニケーションを取ってほしい。

(大石委員)

海洋汚染について、横浜市は海に面した都市であり、海を大切に考える市民による活動が盛り上がるのではないと思うが、今後の取組について教えてほしい。

(事務局)

海だけではなく、海に流れ込む河川や河川に流れ込む可能性のある地域の清掃など、それぞれの取組が海洋汚染防止につながるものと考えており、市全体で取り組んでいく必要があると考えている。

【食品ロスの削減】

（大石委員）

食品ロスの削減には、消費者・事業者・行政が協働して取り組んでいくべきと考えている。

賞味期限と消費期限の違いに対する理解促進などの消費者教育や食品を購入する場での啓発なども重要と考えるが、小委員会での検討状況を教えてほしい。

（事務局）

小委員会では「自分事として捉えていただくよう、ターゲットを意識して伝わりやすい場面で広報啓発を行っていくことが重要」との意見があった。

（大迫会長）

デジタル技術を利用して期限を購入者に伝えていくような仕組みづくりも検討されており、事業者側の優れた取組を促していくことも大事ではないか。

（崎田委員）

プラスチック対策や食品ロス削減は、事業者の先進的で具体的な取組を広げていくことが重要と感じている。横浜市では「横浜市食の3Rきら星活動賞」のように、事業者の優秀な取組を表彰されており、市民と事業者をつなぐような取組の発信によって、市全体で機運醸成を進めてほしい。

（佐藤委員）

私の地域では、食品を必要とされる方に無料配布を行う「フードパントリー」を実施しているが、提供できる食材の期限など周知に課題があると考えている。

（桃井委員）

自身の実体験として、備蓄食品ではなく普段の食品でローリングストックを推奨することは、食品ロス削減に貢献できると考えている。

（崎田委員）

新たな計画の策定に際しては、食品ロス削減推進法で市町村の努力義務となっている「食品ロス削減推進計画」に相当する項目を設けることを検討してほしい。

【廃棄物処理施設の整備・運営】

（佐藤委員）

保土ヶ谷工場の完成を非常に楽しみにしている。早期の完成を目指してほしい。

【多様な社会ニーズへの対応】

(佐藤委員)

ふれあい収集の現在の件数を教えてほしい。

(事務局)

令和3年度8,688件であったものが、令和4年12月現在で9,259件に増加している。

(桃井委員)

数年前の報道において、水分が多く含まれるおむつを処理する際に燃料を利用して焼却処理している自治体があると聞いたが、今後、横浜市でもおむつの処理が増えた際に問題となるのか。

(事務局)

現在、横浜市の焼却工場では24時間焼却処理しているが、燃料は利用していない。

また、今後、プラスチックごみの分別・リサイクルの拡大によって、燃やすごみに含まれるプラスチック製品が取り除かれた場合の影響を検討したが、問題ないものと考えている。

(佐藤委員)

地域における福祉活動の一環として「見守り隊」という活動をしている。週に1回の頻度で台車を使用して、おむつの回収をしていたが、負担が大きくなりお断りするようになってしまった。そのため、行政でおむつを回収する制度ができると大変ありがたいと感じる。

(崎田委員)

現在、おむつのリサイクルを始めている自治体も増えており、情報収集をしてほしい。

【家庭ごみの有料化】

(大森委員)

家庭ごみの有料化については、金銭的な負担により、ごみが出しにくくなる状況が生まれることで、ごみ屋敷の件数が増加する影響なども考えられるのではないかと。

(事務局)

家庭ごみの有料化を導入している自治体の中には、経済的に困窮されている世帯や紙おむつを利用されている世帯などに対する減免制度を設けている例がある。これにより、ごみが出しにくい状況への緩和策が取られている。横浜市でも減免制度の検討を考えている。

(大迫会長)

家庭ごみの有料化が与える様々な影響については、きめ細かな対応が必要になるのではないかと。

(桃井委員)

紙おむつ利用世帯を有料化の減免対象にしている自治体があるということだが、大人用おむつを利用していることを周りから知られたくないという感情にも配慮して、減免の方法を考えていく必要があるのではないか。

(事務局)

今後も高齢化が進み、大人用おむつ利用世帯の増加が想定される中で、金銭的な負担軽減とプライバシーに対する配慮を併せて検討していかなければならないと感じている。

【計画全体について】

(桃井委員)

電池に関するごみの出し方について、電池の種類や電池毎の排出方法、火災防止に繋がることを伝えるチラシを各世帯に配布したところ、大変好評であり、自分事として捉えていただくようになったと感じている。このように、市民の方に納得していただき、自発的な行動につなげていくことが重要ではないか。

(森委員)

本日の議論を受け、行政・市民の行動に比べると事業者の行動が遅れていると感じている。事業者の側において、できることを具体的に進め、事業者からもメッセージを発信できるように努めていきたいと考えている。

(大迫会長)

本日の意見を踏まえ、審議会からの答申案をとりまとめ、次の審議会に諮っていく。

議題 2 令和5年度一般廃棄物処理実施計画の策定について	【資料 2-1、資料 2-2】
------------------------------	-----------------

(桃井委員)

現在、フリーマーケット的なアプリを利用して、個人間でリユースの取組がされているが、さらに取組が広がることで、ごみの削減につながると考えている。

(事務局)

粗大ごみの申し込み用ページや、区役所のホームページ上において、リユースを行う民間事業者の案内等を紹介している。

(大迫会長)

粗大ごみとして排出されたもののうち、抽出して、リユースしているような実績はあるのか。

(事務局)

リユース家具として収集事務所などに展示して、無償で提供している。

(佐藤委員)

リユース家具の提供は良い取組であると感じている。

(大森委員)

CO₂を分離・回収し利用する技術(CCU)の実用化に向けた実証試験について、CO₂収支としてマイナスとなる見込みなのか。

(事務局)

ごみ焼却工場の排ガス中に含まれるCO₂を分離・回収し、二酸化炭素と水素を反応させてメタンガスを生成しようとする取組だが、メタンガスを生成する際に電力が必要であり、実用化に向けて、引き続き、検討を進めていく必要がある。

(大迫会長)

世の中の動向なども先取りして、実施計画に盛り込んでいると感じている。

審議会として了承したものとして、令和5年度一般廃棄物処理実施計画に基づいて進めてほしい。

報告 保土ヶ谷工場再整備事業について

【資料3】

(崎田委員)

総合的な環境学習施設としての役割を持たせることに期待している。単なる学習だけではなく、地域で活動されている団体の参画の場ともなるようにしてほしい。

参考 令和4年度主な記者発表について

【参考資料】

(大迫会長)

「おくすりシート リサイクルプログラム」の実証実験について、その取組自体では採算が取れなくても、投資家からの評価のほかに、小売店舗などと環境的な価値観を共有して、つながりを深めることができるなど、事業者にとっても意義のある取組だと感じる。